

焼岳西穂高岳縦走報告

2009 年 8 月 3 日(月)－ 4 日(火)

M3 只左一也

0 日目：高尾駅→(JR 各駅停車)→松本駅
(駅のホームで仮眠)

1 日目：松本駅→(松本電鉄)→新島々
→(バス)→中の湯→(中の湯ルート)→
焼岳→中尾峠→焼岳小屋→西穂山荘
(幕営)

2 日目：西穂山荘→西穂独標→西穂高岳→
天狗の頭→ジャンダルム→奥穂高岳
→穂高岳山荘)→涸沢診療所

2 日目 (8 月 4 日(火))

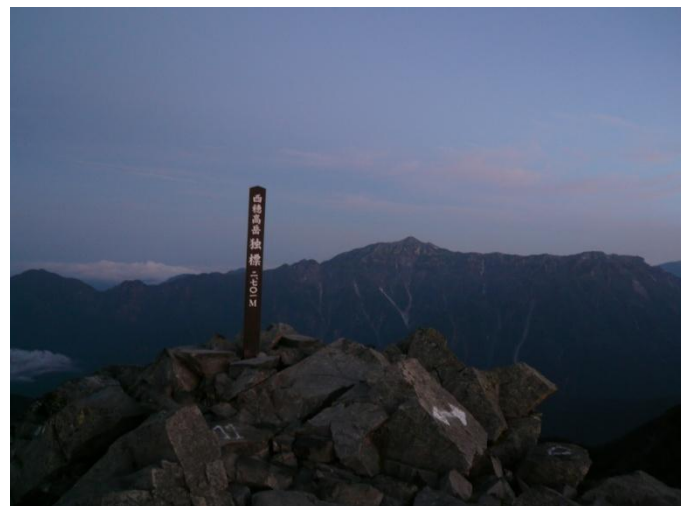
起床	02:30	
西穂山荘		03:40 発
西穂独標	04:30 着	04:45 発
西穂高岳	05:35 着	05:50 発
天狗の頭	07:30 着発	
天狗のコル	07:55 着発	
ジャンダルム	09:20 着	10:00 発
奥穂高岳	11:10 着	11:15 発
穂高岳山荘	11:40 着	12:00 発
涸沢診療所	13:20 着	
(歩行時間：約 8 時間)		

前日の予報では、晴れのち曇りのち雨、ということだったので、2 時半に起きて 3 時半に出発した。出発するときは満天の星だった。

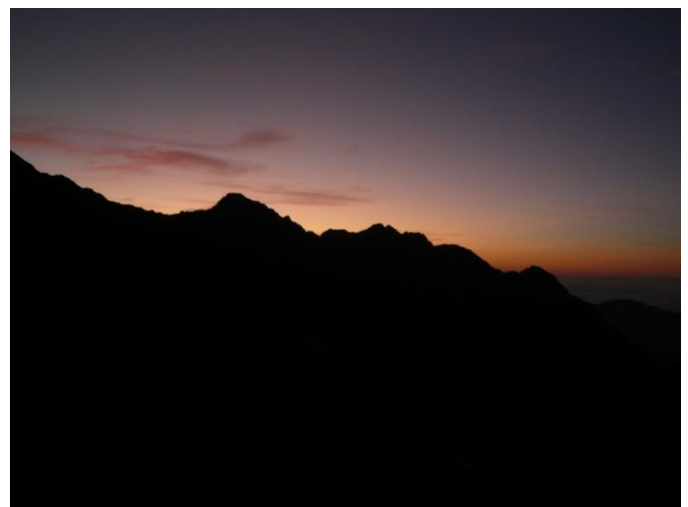
真っ暗な中、なだらかな稜線を登って行くと次第に空が明るくなり、4 時半に西穂独標 (2701m) に到着。ここで少し朝食を取り、出発。道がかなり陰しくなるが順調に進み、西穂高岳山頂に到着。



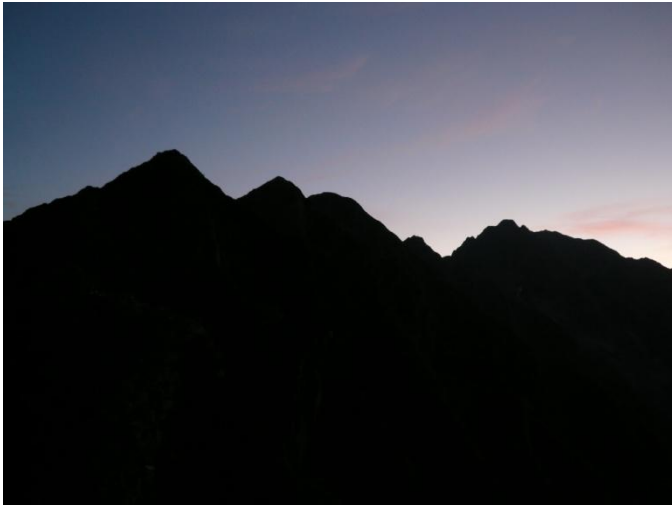
3 時半過ぎ、西穂山荘を出発。



西穂独標に着くころにはだいぶ明るくなっていた。遠くの大きな山は笠ヶ岳。



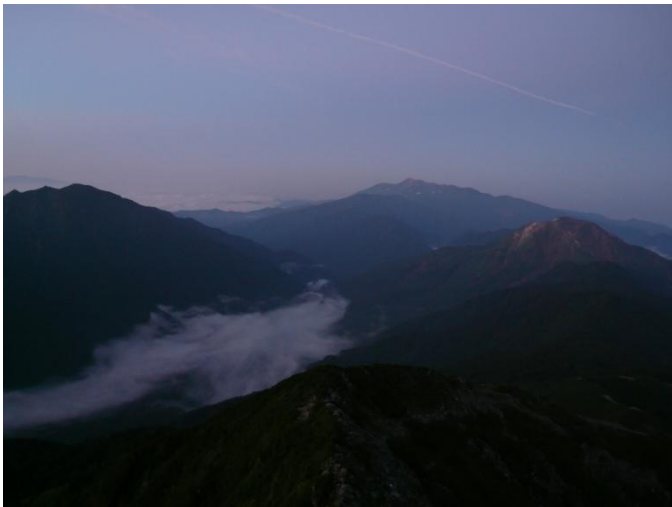
明神岳の稜線



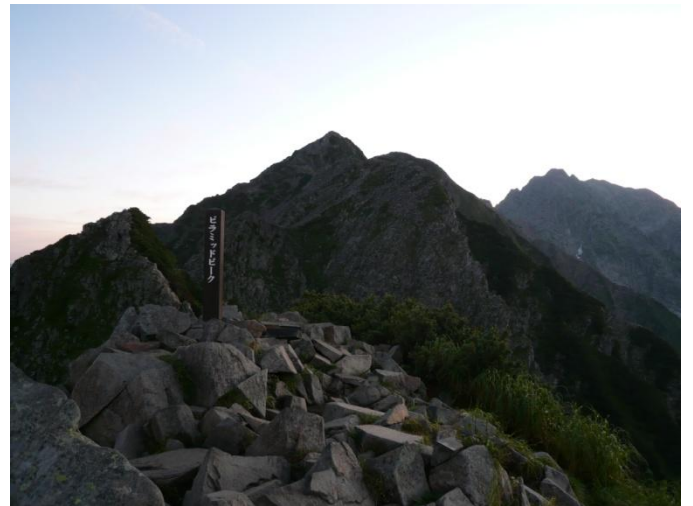
穂高の山々。左は西穂高岳、右は奥穂高岳。



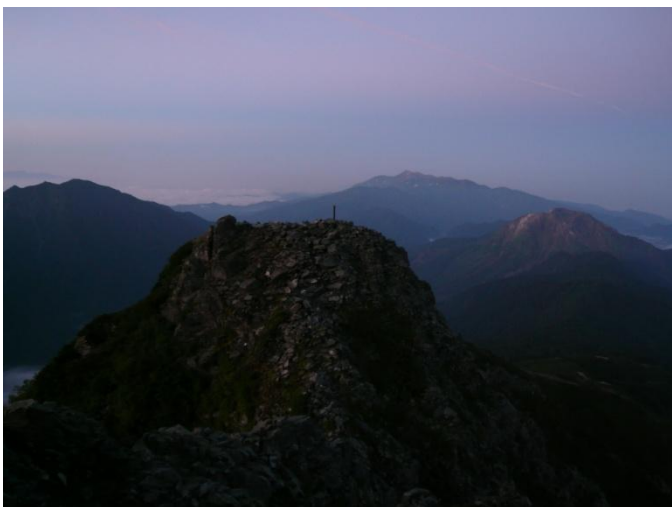
南東の眺め。手前は霞沢岳。遠くに富士山と南アルプス。



南を振り返る。右の赤い山は焼岳、その奥は乗鞍岳、左は霞沢岳。



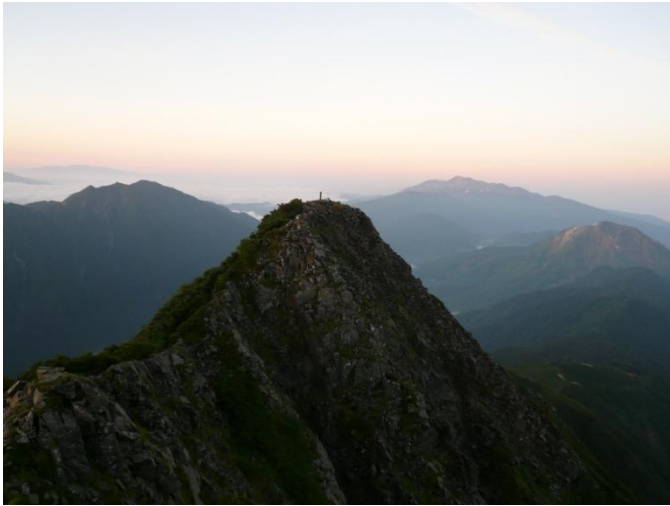
ピラミッドピーク。中央のとがった山は西穂高岳。右は奥穂高岳。



西穂独標を振り返る。



西穂独標～西穂高岳の稜線。



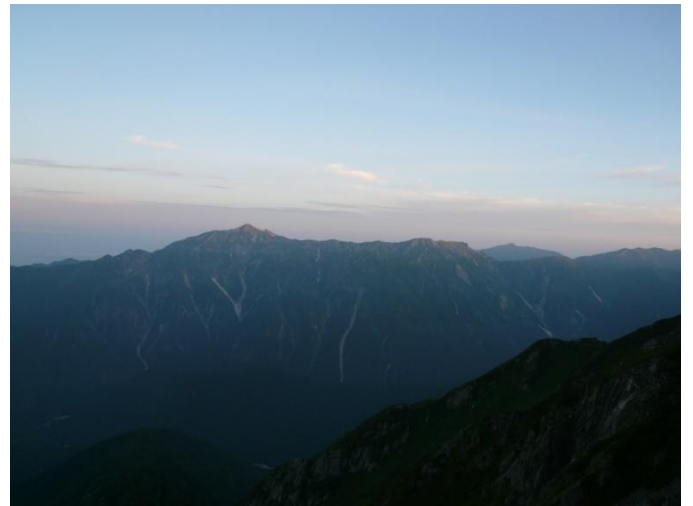
ピラミッドピークを振り返る。



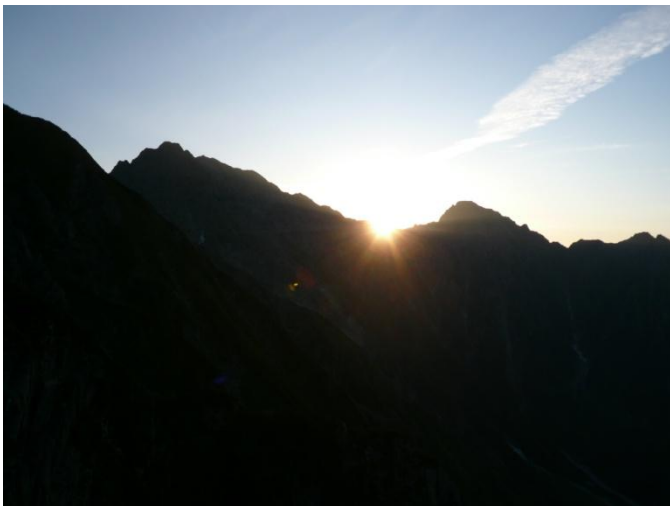
遠く雲海の上に浮かぶのは富士山と南アルプスの山々。



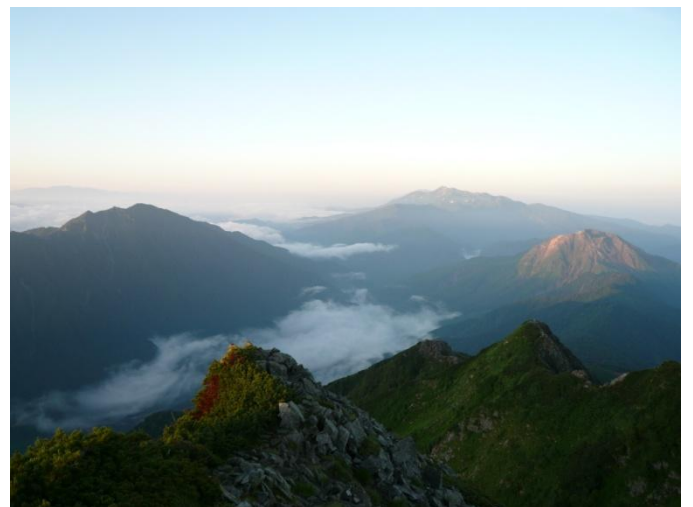
朝焼けの焼岳。左手前はピラミッドピーク。



笠ヶ岳。



吊尾根から日が昇る。





歩いて来た道を振り返る。ここから先はさらに険しくなるので気持ちを引き締める。

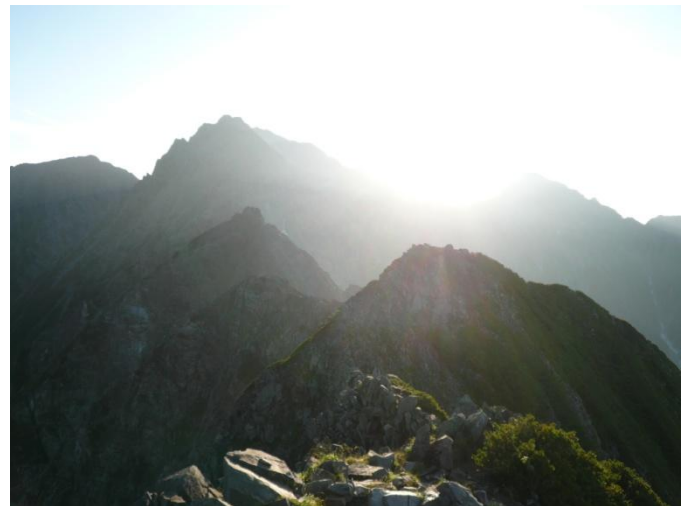


西穂高岳からはさらに道が険しくなる。山頂でヘルメットをかぶり、気を引き締めて出発。浮き石が多くなり、歩きにくい。岩場ももろく、かなりひやひやするところが多いが、順調に進み、見かけ倒しの逆層スラブ（離れて見ると垂直な壁のように見えるが、実際は傾斜がゆるく、鎖がしっかりしていて全く問題なく登れる）を通過し、天狗の頭に着いた。

西穂高岳山頂までもう少し。



西穂高岳に6時前に到着。右は槍ヶ岳。



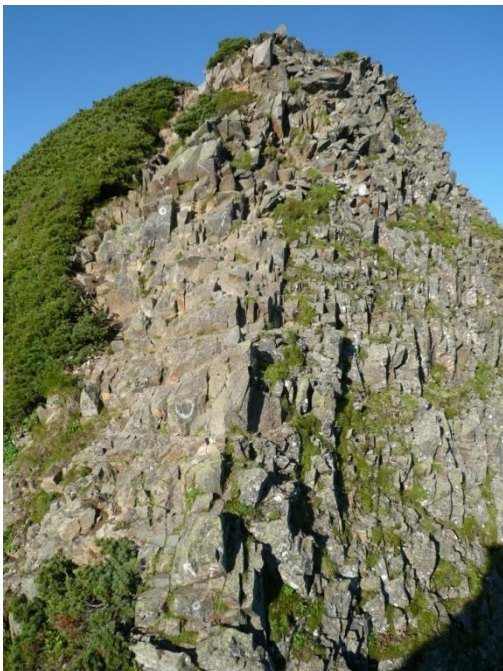
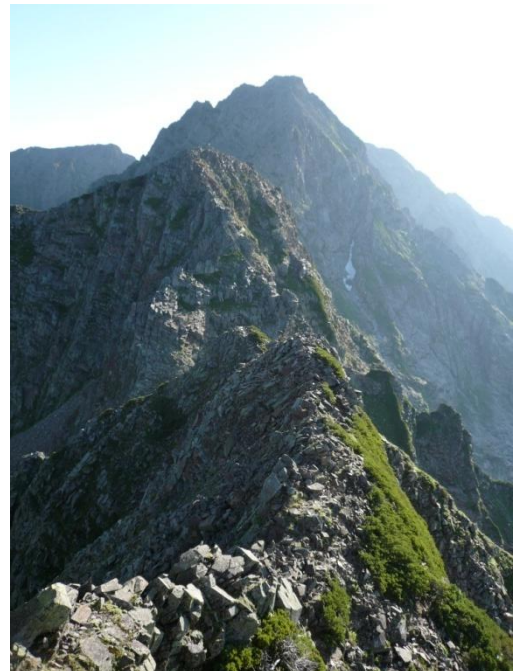
これから進む稜線。



浮き石が多く、歩きにくい。



鎖などしっかり取り付けてあるところが多いが、岩がもろくて崩れやすいので慎重に下る。



間ノ岳から見る逆層スラブ。



逆層スラブは垂直に切り立っていてとても登れるようには見えないが・・・



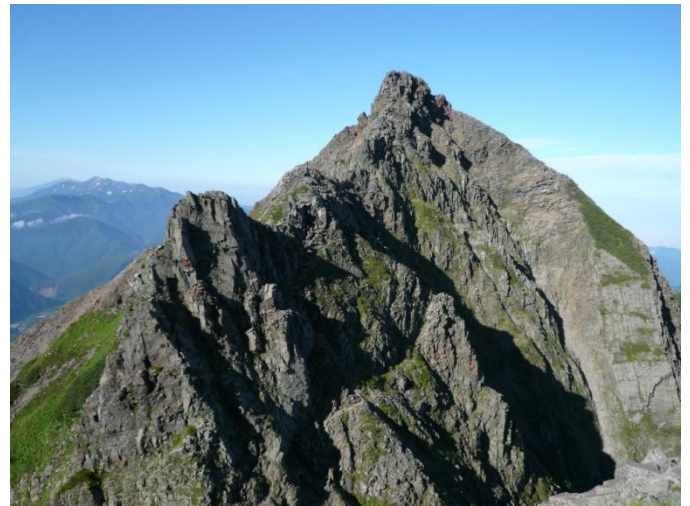
近づいてみると結構傾斜は緩く、



鎖がしっかり取り付けてあって登るのに苦労しない。



天狗の頭。このあたりから、奥穂高から西穂高へ私と逆向きに縦走する人たちとすれ違うようになる。



西穂高岳を振り返る。

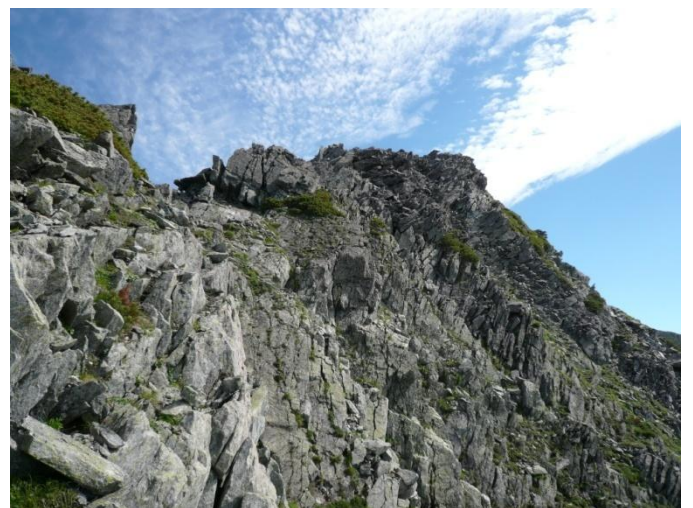
天狗の頭を過ぎたあたりから、逆方向に縦走してくる人とすれ違うようになる。すれ違いに結構時間がかかり、進むペースがだんだん遅くなる。天狗のコルからジャンダルムまでは比較的歩きやすくなるが、向こうからやってくる人が多く、結構長い時間じっとしなければいけないこともあった。9時20分、ようやくジャンダルムに到着。奥穂高の眺めがすごい。

山頂に、地下足袋を履いた60歳ほどの人が休んでいて、声をかけられた。地元の植木職人をされているそうで、地下足袋に履きなれているのでいつも地下足袋で歩くそうである。

休んでいると、ジャンダルムの下をツアー団体らしき10人ほどのパーティーが通過していく。お客さんたちはみんな初心者の方だった。



天狗のコル。このあたりからひととすれ違う頻度も高くなる。すれ違いでは結構時間を食う。





すごい重量感の奥穂高岳。奥穂高岳はここから見るのが一番いいのかもしれない。



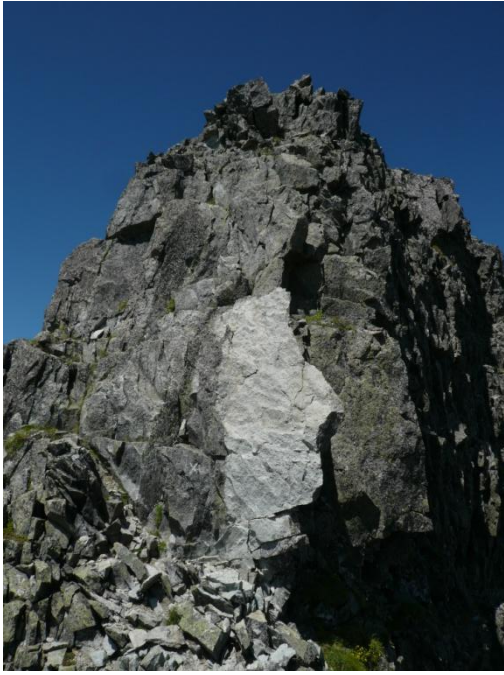
ジャンダルムに到着。頂上には、足袋を履いたおじいさんが休んでいた。地元で庭師をしていて、足袋が歩きやすいのでいつも足袋で来るという。



相変わらず天気が良かったが、少しずつ雲が多くなってきた。ジャンダルムは北側から下るのは難しいので、南側から下りて、信州側の巻道を進む。ジャンダルムから大きく一度下って、奥穂高に登り返すのだが、岩場を下っていると、前から2人組がすたすた登って来た。「あれ、只左さんじゃないの!」との声に、よく見ると常駐隊の吉田さんと佐々木さんだった。パトロール中で、天狗のコルから上高地に下るとのことである。足場の悪いところだったので、挨拶もそこそこに先を進む。その先、1か所、ルートが分かりにくくて少し怖いところがあった。ここは、逆向き（奥穂→北穂）の方が登りになっていいのかもしれない。

馬の背のナイフリッジを超え、11時過ぎ、混雑の奥穂高岳山頂に到着。いくつものグループが写真撮影の順番待ちをしていた。

すぐに穂高岳山荘に下り、岐大診療所に挨拶。ザイテングラードを下っていると急に曇ってきて、青空が消えてしまったが、1時20分、雨が降る前に涸沢に到着した。



ジャンダルムの北側はこの通り絶壁。ジャンダルムに登るには、南側から登る。



ジャンダルムから先、ルートが分かりにくいところがある。ここはもろくて結構おっかなかった。



奥穂高の手前には馬の背の痩せ尾根。



馬の背。このナイフリッジの上を歩く。



11 時過ぎ、混雑する奥穂高岳に到着。



ナイフリッジを振り返る。



ジャンダルムを振り返る。



奥穂高岳山頂までもう少し。



岐大の診療所に挨拶。涸沢診療所には 1 時半に到着した。